

伝導ノイズの解析手法

背景

1. 目的

電気製品で発生する伝導ノイズを可視化し、対策の有効性を事前に検証したい。

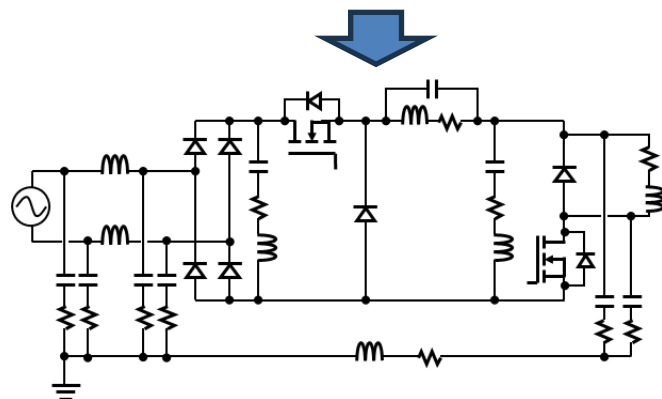
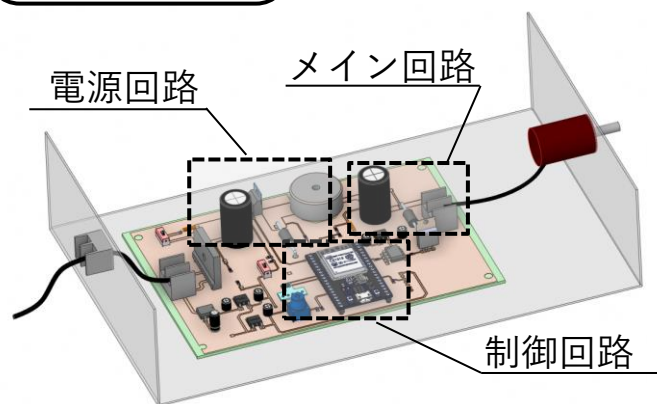
2. 課題

電気製品の回路シミュレーション手法構築

基本情報

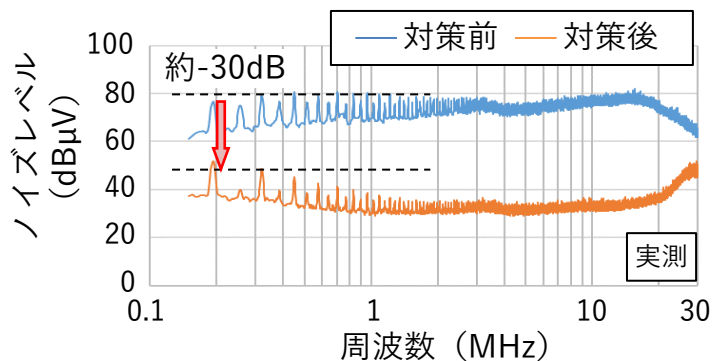
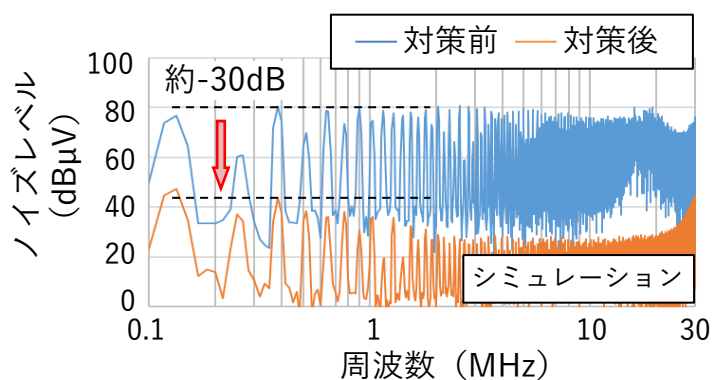
種類	回路
解析レベル	高
期間	2年
支援方法	研究開発
ソフト	LTspice

解析モデル



ノイズ解析モデル

解析結果



対策の効果を事前にシミュレーション可能

まとめ

- ・発生要因の特定や対策が難しいEMC分野の中で、伝導ノイズに関する解析手法を構築した。
- ・シミュレーションから、発生要因の特定、漏洩原理の特定ができ、効果的な対策立案が可能となった。